

- 商品イメージ研究（土着性，裝飾性等）
- 以上4点による波及効果の期待

2. 概 要

本県木製特産品の実態は良心的商品開発が全般には適正になされず，モラル上に疑点のあるものが多く，又，商品に説得性のない国籍不明なるものも多種みられるのが実情である。これらの是正には，我々の研究を事実で逐一，気永く提示して改善を図らねばならぬ問題である。

これは観光立県としても側面からの態勢強化に結び付くものであり，これらに鑑み市場調査を繰り返す初年度として，数種の商品開発を行ったものである。

3. 考察及び成果

商品化にあたっては，我々の立場を十分理解してもらえた企業を通じて実用化を進めたものである。

商品完成にあたって更度の市場調査，問屋小売店など，最終的な意見調整を行い品質チェックの後，市場で現実的評価を見守ったが商品の動向からみて所期の目的が相当程度条件化されたものと受け取れる。

なお，痛感させられた件は，この種商品開発には意匠研究段階から販売に至るまで一定期間，一環事業として指導続行の必要があると思われたことである。

これらは毎年少品種づゝでも取り上げて地道に継続研究指導を行えば，その波及効果は計り知れぬ程大きなものがあると思わるので，今後ともシリーズ研究としたい。

樹脂注入による材質改良研究（第11報）

算盤枠素材の樹脂注入試験（その2）

主任研究員 永 吉 忠 之
 山 田 式 典
研究員 遠 矢 良太郎

1. 目 的

企業化された場合の作業能率促進の手段として，合成樹脂を注入した試料を更に，常態で樹脂中に長時間浸漬することによって，浸漬時間が含脂率にどのような影響を及ぼすかを検討することと強化木の作成。

2. 概 要

算盤枠実物大試料を用い，加圧処理時間2

条件，浸漬処理時間3条件にて，樹脂注入処理後，加熱圧縮した算盤枠用強化木を作成しそれぞれの条件における含脂率等との関係について資料分析を行った。

3. 成 果

これまでの研究成果をもとに，企業化が計画されているが，今回の試験においては，実際の場において大いに参考となる資料を得る

ことが出来た。

樹脂注入による材質改良研究（第12報）

算盤枠素材の樹脂注入試験（その3）

1. 目 的

算盤枠材の不足に伴い、今まで利用されていなかったイスノキ辺材とツバキにフェノール樹脂を注入した後、熱圧して得た強化木を反狂や収縮について、未処理材と比較して、算盤枠材としての利用価値を検討したものである。

2. 概 要

樹脂注入による材質改良研究第10報で冬期3ヶ月行った後、同一試験片を用いて夏期3ヶ月 今回の試験を行った。寸法変化、含水率変化についてみると、冬期及び夏期を通

じて、フェノール樹脂強化木の変化は小さく処理効果が著しい。しかし反狂を数値化した測点変動指数については、強化木の冬期における指数値は未処理材より小さく、処理効果があるようにみえたが、6ヶ月経過後の夏期測定では指数値は大きくなり、未処理材より大きくなった。

3. 成 果

イスノキとツバキのフェノール樹脂注入強化木の比重、色調共に算盤枠材として適当なものとなった。今後は反狂についての問題を解決しなければならぬことが分った。

樹脂注入による材質改良研究（第13報）

アリダード素材の樹脂注入試験（その1）

1. 目 的

従来の平板測量で用いられているアリダードは経時的に狂いやすい。従って狂わずに精度を保持できるアリダードを製作する必要性から、アリダード素材をフェノール樹脂注入強化木として、その性能を検討する目的で本試験を行った。

2. 概 要

本試験はイスノキとミズメ材のアリダード

素材に目盛を白色刻印するため黒色染料を混入したフェノール樹脂を注入し、アリダード形状の圧縮治具により、熱圧し成形して得たアリダード強化木について試験した。

3. 成 果

イスノキとツバキ材のアリダード強化木は未処理材と比較して、含水率及び寸法変化率が小さく又色調の点からも、アリダードとして用いるに安定した材質となり、注入強化木